



ご購入ありがとうございます

11月11日(金)

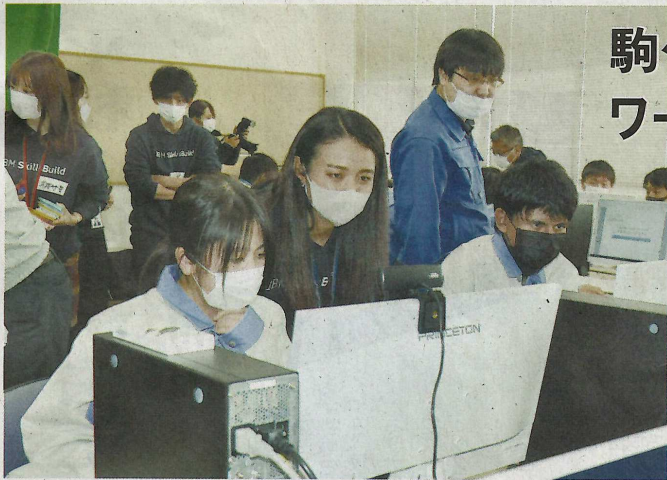
発行所 長野日報社
〒392-8611 諏訪市高島3-0266-52-2000代
©長野日報社2022

地域のIIT人材育成

社員講師に駒工でセミナー

駒ヶ根市と日本IBMのワーケーション事業

ワーケーション推進に向けた国のモデル実証事業に取り組み、駒ヶ根市と日本アイ・ピー・エム(日本IBM、本社・東京都)は10日、駒ヶ根工業高校(同市)でIIT人材の育成を図るセミナーを開いた。企業と受け手となる地域が互いに効果を得られるワーケーションの姿を探る取り組み。市内に滞在する同社社員が講師を務め、自社事業を生かしたIIT業界に関する講話やIIT技術体験を提供した。(田中まみ)



市では「生涯活躍のまち構想」に基づき、都市部の企業人材が地域と関わることで街の活性化につながるワーケーション事業を進め、市内の受け入れ態勢の構築を目指している。日本IBMのワーケーションは観光庁の「ワーケーション推進事業」モデル実証事業の採択を受け、市と同社が共同で企画した。社員を入れ替えて計3回実施し、仕事に従事しながらセミナーやワークショップを通して地域住民と関わる機会を持つ。第2回の今回は8〜11

日本IBM社員(手前中央)に教わりAI画像認識サービスを使ってみる情報技術科の生徒たちII駒ヶ根工業高校

日、インフラエンジニアら6人が滞在する。セミナーは同

校情報技術科3年生14人に行け行い、IoT(モノのインターネット)や人工知能(AI)の活用による作業の自動化や効率化の事例を紹介。AI画像認識やテキスト音声変換などの技術体験も行った。同社から派遣され、市のDX戦略室に勤務する千本松祐介さんは「IIT業界は人手が不足している。セミナーを通

して業界に興味を持ってほしい」と期待。同科の竹内浩一教諭は「実際の仕事内容を知ることができ、生徒にとって刺激になった」と話した。第3回(22、25日)は、製造など地域産業へのテクノロジーの活用について地元企業関係者と意見を交わすワークショップを予定。市は「ワーケーションが企業と地域に相

りんごちいずぷっちい
菓子庵 石川
乗効果をもたらさず機会になっ
てほしい」と話していた。